

東ティモールで

体育教師就任へ

郷
三白川さん

三郷市の白川真生さんの22は7月末にJICA青年海外協力隊員として東南アジアの東ティモール共和国へ旅立つ。今後2年間、首都デリの中高一貫校で体育の教師を務める。三郷市内の自宅で二人の人間として世界の役に立てることを光榮に思う。埼玉との懸け橋になりたい」と抱負を語った。

(岸鉄夫)

白川さんは三郷市立彦成小、同三郷北中から県立春日部工業高校、平成国際大へ進み、2023年春に卒業、同時に青年海外協力隊に応募して合格。それから2カ月間、福島県二本松市の研修所で現地のテトゥン語の研修を受けてきた。「猛特訓だった。朝から、晩まで必死に公用語のテトゥン語を勉強しました。言葉

を学ぶことは、その国の文化を学ぶということ変わらないと思つた」と話す。東ティモールの歴史も学んだ。

「400年近く、ポルトガルなど外国の支配下にあった国で、02年に独立したばかりの新しい国です。僕が生まれた次の

年に誕生したんです。大学で体育教師の資格を

得た。それだけで迎えてくれる国が東ティモールだった。「自分で希望しました」と目を輝かせる。特訓で興味深いことを知つたという。「い따だきます」「おつかれさま」と言つのは日本のあいさつの言葉。東ティモールの日常のあいさつは「座

つて遊ぶなよ」と言つ。「今、何して遊んで聞かれると『座つて遊んでいるよ』と答えるんです。この国では座つていだけ、海を見ているだけで『遊んでいる』という言葉になる。日本では遊んでいるというのは何もしないことで、価値がないような印象。東ティモールでは違つ。遊ぶことは生きる上で大切なことらしい。とても面白いと思います」

【メモ】東ティモールの民主共和国は東南アジアのティモール島の東半分

で約1万5千平方キロ。人口は約130万人。公用語はテトゥン語とポルトガル語。ほかに英語とインドネシア語が使われる。1701年にポルトガルが占領して以来、同国の植民地だった。1975年にポルトガルから独立を宣言したが、インドネシア軍が侵攻し紛争の場となつてきた。98年に独立に反対してきたインドネシアスハルト政権が退陣し、2002年に独立を回復した。

白川真生さん(右)と、旅立ちを喜ぶ祖父の好光さん(三郷市内)



「埼玉との懸け橋に」